

宮崎県市町村・地域づくり団体協働モデル事業

みまたんみらいナビ

みまたんみらいナビ実行委員会

三股町
企画商工課

事業名：みまたんみらいナビ事業

1. 【団体の概要】

みまたんみらいナビ実行委員会の委員長は、三股町役場を退職し、青年協力隊としてアフリカ東部のウガンダ共和国で2年間ボランティア活動を行った。そこでの経験や出会いにより、出会いや人とのつながりの重要性に気付いた。帰国後、様々な出会いやつながりを求め宮崎県内を動き回り、そこで、県内にも素晴らしい生き方や働き方を実現している大人たちが多くいることに気付かされた。その大人たちから刺激を受ける中で、「もし自分が中高生の時に彼らのような大人に出会っていたら、もっと違う今があったのかもしれない。」と考えるようになり、この想いが実行委員会設立のきっかけとなった。

構成メンバーは、三股町役場職員8名、都城市役所職員1名、大学生1名、自営業3名、民間企業職員2名を中心に構成され、事業に賛同する仲間が各回の運営スタッフとして会の運営に参画した。

2. 【事業の目的、ねらい】

中高生が自分たちの未来を自ら選択することができる今、多様な働き方や生き方を実現している県内で活躍するトップランナーの話聞き、価値観に触れ、自らの未来について考える機会を提供することで、広い視野や様々な選択肢を持つ意欲を高め、夢に向かって自ら歩む力を創造する足がかりとすることをこの事業の目的とした。また、県外からUターンし、宮崎県内で地域とのつながりを強く意識しながら活躍する講師を多く招くことで、参加者に県内企業や地元についての関心を高めてもらうことをねらいとした。

3. 【活動内容】

宮崎県内で活躍するトップランナーを講師として招き、働き方や生き方について熱く語ってもらう全10回の講座を開催した。概要は以下のとおりである。

- ①場 所：三股町まち・ひと・しごと情報交流センター～あつまい～
- ②対象者：中学1年生～高校3年生及びその保護者
(延べ参加人数(保護者を含む)：400人)
- ③期 日：平成30年6月16日(土)～10月20日(土)
18時～19時30分

回数	開催日	講師名	所属先
第1回	6月16日(土)	土屋 有氏	宮崎大学
第2回	6月30日(土)	田代 くるみ氏	合同会社 Qurum
第3回	7月14日(土)	村岡 浩司氏	有限会社一平
第4回	7月28日(土)	穂満 一成氏	株式会社アラタナ
第5回	8月18日(土)	日高 葵氏	株式会社訪う
第6回	8月25日(土)	脇 雅昭氏	総務省
第7回	9月15日(土)	ルウ王子	カレー倶楽部ルウ
第8回	9月22日(土)	大工 蘭子氏	株式会社 SMILE LABO
第9回	10月13日(土)	齋藤 隆太氏	株式会社 CAMPFIRE
第10回	10月20日(土)	田中 耕太郎氏	タマチャンショップ店長

④実施内容：参加者に楽しみながら学んでもらうために、町内の特産品や町内事業所のお菓子などを提供し、食べながら講演を聞いてもらうスタイルとした。各講師は、彼ら自身のこれまでの人生経験をもとに、生き方、仕事、働き方などについて講演した。主に、学生時代の過ごし方、夢のを見つけ方、好きなことを見つけそれを追究する大切さ、これからの時代の働き方、経験から得た効果的なマインドセット、地元での生き方・働き方、出会いの大切さなどに関するメッセージを熱い想いとともに参加者にまっすぐに伝えてもらった。また、講演終了後に全体で、閉会后に個別でそれぞれ講師へ質問・相談の時間を設けた。多くの参加者が講師のもとへ歩み寄り、質問や相談をする姿が印象的であった。



4.【事業の成果、効果】

○事業の周知及び波及効果について

チラシを作成し、各市町教育委員会・圏域の中学校・高校と連携を図りながら、チラシの配布を行った。チラシには、公式HPへアクセス可能なQRコードや、各講師の講演テーマ・メッセージを記載した。また、5か月間(2回/月、計10回)にわたる事業だったため、毎月2回分ずつ計5回のチラシ配布を行った。さらに、Facebook・Twitter・LINE@・公式ホームページなどSNSを活用して、参加募集や事業の経過の発信を行った。各SNSのQRコードについては、毎回会場内に掲示し、読み取ってもらうことで簡単にアクセスできるようにした。

当初は、各SNSでの保護者同士、中高生同士のネットワークの中で事業の周知が図られていくものと考えていたが、実際には期待していた程の波及効果はなかった。ただ、それぞれのSNSにおいて一定の反応は確認でき、改善点も見られたと考えている。毎回のアンケート結果や参加者の声から読み取れたこととして、案内チラシを見ての参加が最も多かった。今回は、チラシのデザインをライターの方にお問い合わせし、より伝わるよう工夫をしたが、参加者の声を活かしたチラシのデザインが必要である。

また、参加者が周りの友達を連れてくるという流れは、予想していた範囲内での効果はあったが、それ以上に保護者や先生からの勧めにより参加している中高生が多いということがわかった。保護者のネットワークへの呼びかけや学校の先生とのより密な連携が参加者をより多く集める効果的な手段となると確信した。

さらに、毎回プレスリリースを各メディアに流していたことにより、数社のメディアで取り上げられた。メディアからの発信は、大人に関心を持ってもらう手段として効果的に働いたと考える。

○その他

・講師陣の好意により、SNS等の連絡先を参加者へ共有してもらったことで、悩みなどを気軽に相談できる「講師と参加者とのネットワーク」が生まれた。さらに、違う学校から集まった参加者同士、保護者同士、そして参加者とスタッフの間での交流も生まれた。

・参加申込み方法をGoogleフォームやSNSでの受付とし、連絡先やア



カウントを管理できたことで、圏域で行われているその他のキャリア教育イベント等と連携して、そのイベントの案内を参加実績のある中高生にメールや SNS を通して行うことができた。

5.【まとめ】

本事業は、事業の幅広い周知と自己資金調達のためのクラウドファンディングに始まり、企画運営まで本当に多くの方々の応援と協力に支えられて今年度の計画を完了することができた。この事業のきっかけにもなった想いの中心である『人との出会い、つながり』が活かされた形となった。また、事業を運営していく中で、中高生、そして周囲の大人たちの思考や環境に関する知見を得ることができたことは大きな価値があると考えている。この事業を通してできたつながりや得ることができた知見を、地域でのキャリア教育支援のみならず、様々な地域活動においても大いにいかしていきたい。

そして、各回の中で、講師の話を前のめりになって聴く参加者の姿や、閉会後も講師のもとへ質問や相談をしに集まる姿、そして、アンケートにつづられた感想を目にして、この事業は参加してくれた中高生にとっては当初の目的を果たただけでなく、間違いなく大きな価値のあるものになったと実感している。

今後は、まず参加者に対してのフォローアップを目的としたワークショップの実施を計画している。さらに次年度以降も、今回の事業での課題を改善した「みまたんみらいナビ」やその他のイベントを行っていきたいと考える。そして微力ながら中高生が明るい未来に向けて、彼ら自身の選択で進んでいくためのサポーター、団体として活動していく。

